

中山間地域を未来へ繋ぐ活動に参加しませんか？

～しがのふるさと支え合いプロジェクト～

参加大学様
企業様
大募集！！



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

未来へつなぐバトン

「中山間地域」とは、山間地とその周辺の地域をいいます。滋賀県では、県土の約65%がこのような地域です。農村は、食糧生産の場であるだけでなく、雨水を一時的に貯えて、洪水や土砂崩れを防いだり、たくさんの生き物を育みます。また美しい農村の風景は、私たちの心を和ませる役割を果たしています。

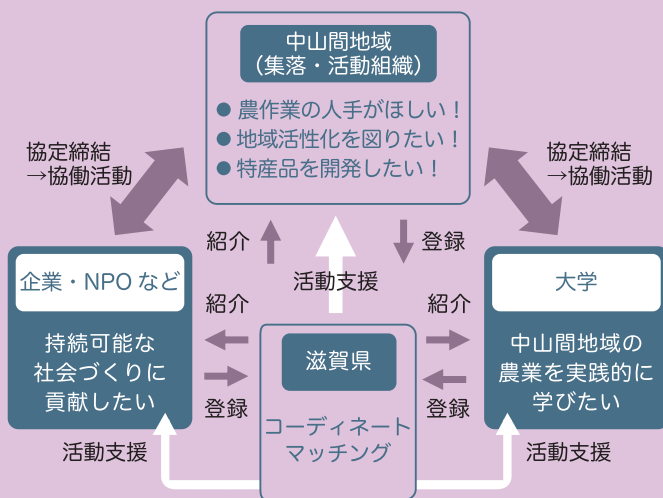
近年、中山間地域では人口減少や高齢化の進行、農業の担い手不足などにより、耕作放棄地の増加が心配されます。

今後、住民の力だけでは地域の農業、農村を維持するのが厳しい状況になりつつありますので、

都市部に住む人々にも様々な『めぐみ』をもたらす中山間地域を、みんなで守っていきませんか？

都市と農村、世代を超えた人々との交流を「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を通して広げ、この大切な場所を未来へつなぎましょう！

プロジェクトのイメージ



【しがのふるさと支え合いプロジェクト】事業紹介

甲賀市牛飼は、令和元年に県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に登録し、地域活性化に向けた協定を締結して、農作業等の協働活動に協力してくれる大学や企業等を募集しています。

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」とは、中山間地域の活性化を目的に、地域の集落等と企業や大学、NPO法人等の皆さんが協働し、農作業や棚田の保全活動、都市農村交流活動などを行っていただく取組です。

県では、協働活動のコーディネーターや、相手先とのマッチング、協定を締結し協働活動を行う団体への支援を行っています。

詳しくは
こちら



こうがし うしかい

甲賀市牛飼の紹介



牛飼地区は滋賀県の南東に位置し、近江修験道の山である飯道山の山裾に広がる町。貴生川（甲賀市水口町）から、信楽間を結ぶ信楽高原鐵道が地区内に走っている。牛飼という地名は一説によると、紫香楽宮（しがらぎのみや）造営にあたり、農耕奨励のために牛を飼ったことにちなむそうだ。昔から農と暮らしてきた牛飼地区では世帯数が169戸。水稲・麦・大豆の栽培が盛んであるが今、新たな農の取り組みを始めている。



「田んぼアート実行委員会」
副代表 山田 康廣 氏

広大な自然の キャンパスにアートを

牛飼地区では、平成27年から田んぼアートをスタートさせた。田んぼアートとは、田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を使って巨大な絵や文字を描くものである。活動のきっかけは平成25年の台風18号の被害。猛烈な台風は信楽高原鐵道の線路を支えていた橋脚を飲み込み、再開するまでに一年以上も要した。「このような形で高原鐵道の乗客数が落ちてしまったので、これまで地域を支えてくれた鉄道を応援したいと思ったんです。高原鐵道に乗ってもらって、田んぼアートを見てもらうというように。」と、うしかい田んぼアート実行委員会（以下「実行委員会」）副代表の山田さんは語る。絵柄は高原鐵道に乗った時に一番綺麗に見えるように遠近法を使い設計されている。田んぼアートは通常、見晴し台などを作って眺めてもらうが、牛飼のような「列車に乗って見る」田んぼアートは全国的にもかなり珍しいという。今までに「信楽のタヌキ」や「にんじゃえもん」や「ぼんぼちゃん」そして「イナズマロックフェス」の「コロボ」など。滋賀にゆかりの絵が田んぼに描かれ、高原鐵道に乗る人たちを笑顔にしてきた。笑顔になる人たちはそれだけではない。こどもから大人まで誰でも参加できる田んぼアートの田植・収穫の作業体験を年に二回開催していて、集落の子供達はもちろん、関西圏の方、遠い方だと東京から話題を聞きつけて毎回300〜400人が参加されている。この活動を企画・運営しているのが「うしかい田んぼアート実行委員会」だ。牛飼地区の自治会をはじめとする地域団体、そして甲賀市を含む行政団体、信楽高原鐵道株式会社、全15団体で構成されている。地域内のこどもから高齢者まで全員が田んぼアートをまんなにしてつながる機会を創出している。食育と生きがいに繋がっているのだ。

一緒に 活動してくれる仲間を募集



絵柄の部分は繊細かつ丁寧な作業が求められるため、一般の方が参加する田植イベントの前に3日間ほどかけて地元有志で植え付けをされているそうだ。ただでさえ、手植えは腰を曲げて行う体力を消耗する作業であるのに、絵を描くとなるとより一層疲労する。絵柄や文字の部分は千本以上のピンでプロットしていき、枠を固定。そして、それぞれの色の苗が植えられる。今年は4品種で描かれてピンの数は1700本。これが失敗すると成長していったときに綺麗なアートにならないので、責任重大な作業である。今は実行委員会と県職員などのサポートを借りてやっとの思いで植えられている。収穫作業も大半は手刈りで行うため、その脱穀作業も手作業で行なっている。また、田んぼアート用の苗は特殊で、一般的な苗の数十倍の価格。アートの元になる図面も専門家が描けないので、資金面でも苦労している。この取り組みを継続していくために、しがのふるさと支え合いプロジェクトを活用して、連携できる大学や企業を探している。大学生にアートのイラストや図面作成をしてもらったり、田植や収穫イベントの企画や運営を支援してもらえたらと思っている。また、田んぼアートではロゴマークや文字を描くことも可能なので、協賛企業のPR協賛に活用するなど、様々な関わりが考えられる。そのほか、田んぼアートを広範囲に渡って使用されているもち米を使って、今後の活動費用に充てられるようにする。など様々な可能性がある。知恵を出し合って、地域を守ってくれる団体さんと繋がってほしい。

お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課 地域資源活用推進室

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

詳しくは
こちら

